

はじめに

本報告書は平成 19 年度に日本原子力技術協会（以下、「原技協」という）が実施した原子力発電所特別ピアレビュー活動についてのセルフアセスメントの結果をまとめたものである。

原技協は平成 17、18 年度に4つの原子力発電所についてピアレビューを実施した。この4回のピアレビューでは、米国原子力発電運転協会（以下、「INPO」という）の協力を受けて、INPO の採用するレビュー方式が採用された。

原技協では、原子力発電所のピアレビューについては、INPO のピアレビュー方式が有効であるとの感触を得たことから、今後も引き続き、本方式に基づくピアレビューを実施する予定である。このため、これら4回のピアレビューの結果を評価し、長所および要改善事項を確実に抽出し、今後の原技協の原子力発電所ピアレビュー活動の改善に資することを目的として、セルフアセスメントを実施した。

本セルフアセスメントには、外部組織レビューワーとして、INPO から1名、電力から2名の原技協ピアレビューに参加した経験のあるピアが参加した。

なお、ピアレビュー方式の変更に伴い、NS ネット設立以降実施していた従来のピアレビューと区別するため、原技協では INPO のピアレビュー方式にしたがって実施したピアレビューを「特別ピアレビュー」と呼称しているが、本報告書では特に断りのない限り、特別ピアレビューとピアレビューの語を区別して用いてはならず、ふたつの言葉に特に意味の相違はない。

概要

1. スケジュール

表1に示すとおり、平成19年7月23日(月)～27日(金)の間、原技協事務所にてセルフアセスメントを実施した。

なお、セルフアセスメントでの評価、検討に供する情報を入手するためにピアレビュー関係者へのインタビューを実施したが、一部、インタビュー対象者の業務都合により、表1に示した期間に先立ち、別途実施したインタビューがある。

表1 セルフアセスメントスケジュール(実績)

		セルフアセスメント実施内容
7月23日(月)	午前	<ul style="list-style-type: none">・ チームメンバーに対するセルフアセスメントの目的・期待事項の説明・ オリエンテーション(スコープ、手法、スケジュールの説明)・ 文書レビュー
	午後	<ul style="list-style-type: none">・ 文書レビュー・ インタビュー・ チームミーティング
24日(火)	午前	<ul style="list-style-type: none">・ 文書レビュー
	午後	<ul style="list-style-type: none">・ インタビュー・ チームミーティング
25日(水)	午前	<ul style="list-style-type: none">・ チームミーティング・ インタビュー・ 要改善事項(案)の文書化
	午後	<ul style="list-style-type: none">・ インタビュー・ 要改善事項(案)の文書化・ チームミーティング
26日(木)	午前	<ul style="list-style-type: none">・ チームミーティング
	午後	<ul style="list-style-type: none">・ インタビュー・ 要改善事項(案)の文書化・ 長所(案)の文書化・ チームミーティング
27日(金)	午前	<ul style="list-style-type: none">・ 原技協経営層にセルフアセスメント結果を説明

2. 方法

本セルフアセスメントでは、業務を規定する文書、指針、反省事項集約表、原技協内外からのフィードバックに基づき、ピアレビューの各実施プロセスについてチームメンバーによる問題提起とそれについての議論を行い、プロセスの妥当性を評価するとともに、問題点を要改善事項として抽出した。さらに、長所も抽出した。

原技協内外からのフィードバックについては、ピアレビュー後に回収した参加者のフィードバックシートに加えて、今回のセルフアセスメントにおいて実施した関係者へのインタビュー結果も利用した。

インタビューの対象者は以下のとおりであり、原技協外部15名、内部6名の合計21名である。

(原技協外部)

発電所長 1名

発電所ホストコーディネーター 2名

発電所カウンターパート 7名

(内訳: 組織と管理体制分野 1名、運転分野 1名、保守分野 1名、
技術支援分野 1名、放射線防護分野 1名、
運転経験分野 1名、本店担当者 1名)

電力ピア 5名

(内訳: 保守分野 1名、技術支援分野 2名、放射線防護分野 2名)

(原技協内部)

理事長

総括代表経験者 2名

チームリーダー経験者 1名

レビューワー経験者 2名

3. チーム構成

セルフアセスメントの実施体制は、以下のとおりである。

チームリーダー : 原技協職員

チームメンバー : 原技協職員(3名)、電力ピア(2名)、INPOピア(1名)

4. 結果の概要

セルフアセスメントの結果、抽出された要改善事項および長所の概要は以下のとおりである。

4. 1 要改善事項

要改善事項として以下の8件を抽出した。

4. 1. 1 チームリーダーと総括代表者の役割と責任

チームリーダーおよび総括代表者への期待事項や役割と責任が明確でないため、チームの運営が満足に行われていない場合がある。このような状況は、効率的かつ実効的なピアレビュー活動を阻害する要因となっており、発電所に有益な改善提言を行う上での妨げとなっている。

4. 1. 2 ピアレビュー結果の公開に伴うカウンターパートやレビューワーの負担感の軽減

ピアレビュー結果を公開するという方針が、カウンターパートやピアを身構えさせ、さらに本来のピアレビュー活動に加えて、カウンターパートやレビューワーが公開のための調整業務に時間を割かなければならず、負担となる状況が存在した。

4. 1. 3 基準、ガイドライン、“How-to”の整備

ピアレビューの基準として、「WANO 達成目標と基準」を使用しているが、国内外の業務運営方法の違いもあり、カウンターパートやピアレビューワーがその内容を十分に理解していないことがある。さらに、ピアレビュープロセスについての具体的なガイドラインや“How-to”(ノウハウ集)がないか、または不明確である。その結果、ピアレビュー活動の効率的な運営に支障をきたしている。

4. 1. 4 改善提言に対する発電所の理解促進

発電所は、チームが提案する改善提言の内容について理解しにくい場合があった。これは、国内外の文化や業務運営方法等の違いがあるにもかかわらず、原技協ピアレビューチームによる発電所への達成水準に関する情報提供や説明が不足したこと起因する。

4. 1. 5 改善提言に対する発電所の改善活動の支援

ピアレビュー後、発電所が改善提言に対する改善計画を策定していない場合がある。すなわち、改善提言が発電所の安全性・信頼性の向上に貢献できていない場合がある。

4. 1. 6 事前準備のより効率的な入手

事前訪問や事前入手資料などを通じて、発電所の有益な情報を効果的に収集していない。この結果、事前のピアレビューの着眼点の絞り込みが不足し、発電所でのピアレビュー活動が効率的に実施できない可能性がある。

4. 1. 7 改善提言に対して、発電所の対応が消極的な場合の処置の事前検討

ピアレビュー期間中または終了後に、発電所の対応が防御的であったり、改善に対して消極的であったりした場合の対処方法が決まっていない。

4. 1. 8 電力ピアに対する教育の充実

初めてピアレビューに参加する電力ピアに対する教育内容が必ずしも十分ではないため、ピアレビュー活動に支障をきたしている場合がある。

4.2 長所

長所として、以下の1件を抽出した。

4.2.1 日本語によるピアレビューの実施

ピアレビューを日本語で実施するため、資料準備等のホスト側の負担感は OSART 等と比べて少ない。また、日本人レビューワーの分野では、カウンターパートとのコミュニケーションがスムーズに行われた。

以 上